

世界の主要産業を支える自動化技術

多様で包括的な製品ラインアップを武器に、CKD株式会社はファクトリーオートメーションのキープレイヤーとしてこれからの時代をリードしていく。

CKD株式会社は、1943年の設立以来、約80年にわたって自動化と流体制御技術の研究開発に携わってきた伝統と革新を併せ持つ国内有数の総合メーカーである。

最新技術や高品質な製品に対する他に類を見ないほどのこだわりを武器に、現代社会の「モノづくり」を支える多様な製品を開発・生産してきた。

現在、CKDは「自動機械」と「機器」の2つを軸に事業を

同社は半導体の製造装置用バルブにおいて世界的に高いシェアを誇るなど、グローバル市場においても大きな存在感を発揮している。そんな同社が次に注力すべき領域として見据えるのが、日々刻々と技術革新が続く半導体産業である。

CKDは半導体デバイス向け製造設備として、薬液やプロセスガスなどの流体を制御する部品を製造・販売している。今後も長期的な市場拡大が

の開発・販売にも力を入れていく考えだと梶本会長は話す。

CO2排出量削減貢献のために同社が進めてきた取り組みの一つが、あらゆる産業分野の生産ラインで使用される長寿命製品の開発だ。従来の4倍の寿命を持つ同社の製品によって定期メンテナンスの期間が長期化し、結果として廃棄物の削減につながっている。

国内外におけるパートナーシップの拡大も、今後CKDが力を入れていく領域の一つだ。これまで同社は独自の技術開発に注力してきたが、今後は国内および海外企業とのパートナーシップを深化させることで、サービス全体の効率化と国際的なプレゼンスの向上を目指す考えだと梶本氏は語る。

「お客様に最適な製品・技術・サービスを迅速かつ確実にお届けするために、欧州や北南米、アジアを網羅するグローバルな販売ネットワークを構築しています。」

実際に、CKDが持つ生産拠点のグローバルネットワークは全世界で現在約170にも及ぶ。国内5工場に加え、中国、タイ、マレーシア、韓国、インドネシア、北米に工場を構えている。今年4月には米国テキサス州のオースティンで工場が竣工し、半導体製造用部品の生産が始まったばかりだ。

梶本会長は、今後4年間で海外での売上高比率を現在の約30%から40%まで引き上げたいと話す。欧州などの



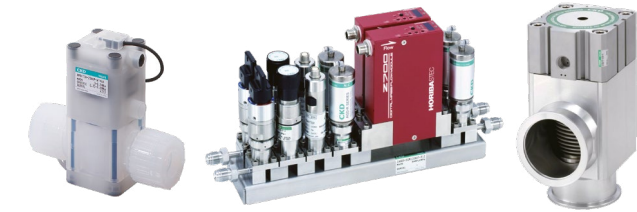
「これからの世の中において、我々は自動機械技術と機器製品技術の融合で世界のトータルFAサプライヤーを目指します。」

CKD株式会社 代表取締役 役員会長 梶本 一典

拡大の余地が残る地域を中心に販路の開拓を続け、グローバルサプライヤーとしてさらなる成長を目指していく考えだ。

創立80周年という節目を目前に控え、梶本会長はこれからの国際社会、そして未来のあるべき姿を見据えた経営を続けていきたいと語る。

「年齢を重ねると、物事の全体像が見えてきて、国内・国際社会や地球環境など自分以外のことを考える時間が増えていきます。これからは物質的な豊かさを追い求めるだけでなく、多少の不自由さを受け入れることも大切です。中国の哲学者、老子の本に『足るを知る』という言葉がありますが、これは自分の身の回りのことに満足することから始まります。この概念が世界中に広まれば、世界は今より更に良くなるはずだと信じています。」



半導体産業向け流体制御機器

展開している。自動機械分野においては、リチウムイオン電池の製造装置や、医薬品や食品の包装機、電子回路基板の検査機など、現代社会に欠かせない産業分野を下支えする製品を生産している。機器分野では、エアアクチュエータや電動アクチュエータ、流体制御機器など、半導体や自動車、電子部品製造といった「モノづくり」を支える革新技術を提供し続けてきた。

見込まれることを受け、同社は今年7月、石川県小松市に半導体製造装置向けの機器製品を生産する新たな工場を建設すると発表した。

梶本会長は新たな工場建設の理由について、「今後予想される半導体産業向け部品の需要増に対応するため」と語る。

新たに石川県に建設される北陸工場では、愛知県の春日井工場と同様に薬液用バルブを生産する。一方、宮



CKD北陸工場(2024年稼働予定)

「自動機械と機器という2つの分野の技術を融合させることで、私達はFA(ファクトリーオートメーション)におけるグローバルサプライヤーを目指します」と語るのは、CKD代表取締役会長の梶本一典氏だ。

城県にある東北工場では、プロセスガス用バルブの生産を行う。

CKDが取り組みを進めるのは、半導体産業だけにとどまらない。2050年のカーボンニュートラル実現に向け、CO2排出量削減に貢献する製品



医薬品包装機

CKD

Automation Technology for the Future



CKDは、自動化や流体制御の事業領域を通じて、さまざまな社会的課題の解決に向けた技術革新と価値創造に取り組んでいます。これからも、SDGsの達成にコミットし、企業理念に掲げた「豊かな社会づくり」に貢献し続けます。



www.ckd.co.jp